

指導に生きる 特集 評価のヒント

新しい学習指導要領が実施され、
小学校は1年半、中学校は半年が経過しました。
英語の学びの変化に伴って、
学習評価のしかたも今までとは大きく変わっています。

評価規準の設定や、実際の評価の方法について、
悩みをもたれている方も多いのではないのでしょうか。
本特集では、そんな「評価」の悩みに向き合い、
さまざまな角度から、指導に生きる評価について考えます。

小学校外国語では、5年生1学期の授業を行う中で、
何をどう評価したのか、
やまかわたく 山川拓先生(京都市立九条塔南小学校教諭)にご紹介いただきます。
そして、その実践について、ひがしひとみ 東仁美先生(聖学院大学教授)と
かどうひろゆき 加藤拓由先生(岐阜聖徳学園大学准教授)に解説していただきます。

中学校英語では、評価の基本的な考え方や大切にしたいポイント、
日々の授業の中での悩みや疑問などについて、
おおたひろし 太田洋先生(東京家政大学教授)とながぬまなおゆき 長沼君主先生(東海大学教授)に
解説していただきます。

小学校

5年生1学期の**実践**と**評価**



京都府京都市立九条塔南小学校教諭
やまかわ たく
山川 拓

はじめに

私は今年度、「外国語アドバイザー」という
形で各学年に関わりながら、どの担任の先生も
外国語や外国語活動の授業をスムーズに行える
ようになることを目指しています。特に本校の
5年生の先生方は、外国語科が設置されてから
初めて高学年の担任となり、外国語の授業にと
ても不安を抱いておられました。そこで、教材
研究の段階で学年会に入り、単元のゴール、ゲー
ムやアクティビティのやり方、教室英語などに
ついて一緒に相談しながら決め、時には事前練
習もしながら、当日の授業に臨むようにしまし
た。

評価の全体計画

年度当初に行われた学年会では、教科書や指
導書、京都市が作成している指導計画や昨年度
の指導実践をもとに、「どの単元の、どの活動
で、どんな観点の評価をしていくか」という評
価の全体計画について話し合いました。外国語
科では評価の3観点について、「聞くこと」「読
むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発
表]」「書くこと」の5領域において、年間を通

してバランスよく評価することが求められてい
ます。そのため、どうしても「1学期の中です
べての項目を評価しなければならない」という
考えをもたれがちです。そこで、年間を通した
評価計画を示しながら、「評価する項目」「評価
しない項目」を整理し、以下の点について確認
をしました。

- 学習の初期段階に当たるので、「読むこと」「書くこと」は、活動として行う場面もあるものの、記録に残す評価としては扱わない。
- 「聞くこと」はUnit 1～3の単元全体を通して評価する。
- 「話すこと[やり取り]」はUnit 2の単元末のパフォーマンス・チャレンジでも評価する。
- 「話すこと[発表]」は、Unit 3のグループ発表で評価する。

図1(p.4)は、これらを簡単な表に整理したものです。年度当初の計画なので、実際に授業を進めていく中で評価がうまくいかなかったり、さらに細かく評価する必要が出てきたりしたときには、評価場面を追加するなどしながら、学びの様子を記録していくようにしました。

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
知識・技能	Unit 1-④ Unit 2-② Unit 3-④		Unit 1-③ Unit 2-⑦ パフォーマンス・ チャレンジ	Unit 3-⑦ (発表会)	
思考・判断・表現	Unit 2-⑥ Unit 3-⑥		Unit 1-⑥ Unit 2-⑦ パフォーマンス・ チャレンジ	Unit 3-⑦ (発表会)	
主体的に 学習に取り組む態度	参加の様子 振り返り		参加の様子 振り返り	参加の様子 振り返り	

※丸付き数字は各Unit内での時数を表す。(例:Unit 1-④…Unit 1の4時間目)

図1 5年生1学期の評価計画

実践1 Unit 1&2「話すこと[やり取り]」 ——Response+1を目ざして

5年生の児童は、4年生までの外国語活動の中で、英語を使ったやり取りを楽しみ、伝える喜びを味わってきました。英語を使って活動することが好きな児童が多かったので、Unit 1と2では、英語を使ったやり取りのレベルアップを目ざしました。具体的には、質問して答えるだけではなく、反応(Response)を加えたり、さらに1文追加してやり取りを2往復、3往復と増やしたりしていけるような取り組みを進めました。Let's listen.の中で登場人物が使っている表現に注目して、使う場面を考えたり、友達に対して使ってみたりすることで、やり取りに広がりをもてるようにしました。まだまだ定着しているとはいいがたいのですが、Responseを心がけながらやり取りをする児童も増えてきたように思います。

京都市ではUnit 2の終わりに「パフォーマンス・チャレンジ」として指導者と個別にやり取りする機会を設けています。そこで、この機会

を利用して、「ALTの先生に自分のことを知ってもらおう」ということを児童に伝えました。ただ、ALTの先生は日程の都合で来られなかったので、代わりにJTEとして私が、英語のみで児童と1分程度のやり取りの時間を取るようにしました。図2(p.5)はパフォーマンス・チャレンジのルーブリックです。これは、『Here We Go!』の評価資料にあるルーブリックをもとに作成しています。

パフォーマンス・チャレンジの時間には、これまで学習してきた表現を使ったやり取りができていることに加え、指導者があえて聞き間違いや返答を確認するような言葉を入れ、児童がどのような反応をするかを見ました。また、最後には児童が指導者へ質問をする時間も設定し、その内容や指導者が答えたときの反応なども見るようにしました。個別の時間が終わった後に^{あんど}安堵した顔を見せる児童や、まだまだ話し足りないという様子の児童もいて、このパフォーマンス・チャレンジの時間に、意欲的に取り組む様子が見えました。

実践2 Unit 3「話すこと[発表]」 ——聞き手を意識した発表を目ざして

5年生の児童は、これまでの外国語活動で、指導者と一対一での発表は経験していましたが、「みんなの前で発表する」という経験がありませんでした。そこで、Unit 3の「夢の時間割づくり」では、一人が一つの曜日を担当して、6時間分の予定を考えて発表するようにしました。また、既存の教科だけでなくオリジナル教科を入れてもよいことを伝え、夢の時間割の幅を広げるようにしました。発表については、単元で学習する単語や表現を使うことが基本になりますが、「相手によりわかりやすく伝えること」を意識するよう伝え、自分のお気に入りの教科やその理由をひと言追加して発表できるようにしました。

発表会では、「自分の英語をみんなの前で知ってもらおう」という初めての活動に緊張している児童も見られましたが、前時まで友達と練習を重ね、アドバイスをし合いながら準備を進め

ていたこともあり、すべての児童が最後まで発表をやりきることができました。言い方やジェスチャーなど、グループごとに工夫しているものもあり、「どんな発表をするのかな」とお互いにワクワクしながら聞き合う様子も見られました。

なお、Unit 3のグループ発表では、「学習した語彙を正しく使って発表しているか」で【知識・技能】を、「理由を追加するなど、聞き手により自分の思いを伝えられるような工夫をしているかどうか」で【思考・判断・表現】を、そして、「発表そのものを最後までやり抜く姿や、毎時の振り返りの内容で自己調整する姿」で【主体的に学習に取り組む態度】を評価しました。

【主体的に学習に取り組む態度】の評価

【主体的に学習に取り組む態度】については、「粘り強い取組を行おうとしている側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の二つがあることはご存じのことと思います。特に後者については、活動の様子を観察するだけでは

観点	項目	A:十分満足できる	B:おおむね満足できる	C:努力を要する
知識・技能	語句や表現の使用	自分の【名前】【スペル】【誕生日】【誕生日に欲しいもの】について、学習した語句や表現に既習のものを加え、伝え合っている。	自分の【名前】【スペル】【誕生日】【誕生日に欲しいもの】について、学習した語句や表現を使って伝え合っている。	一人では、自分の【名前】【スペル】【誕生日】【誕生日に欲しいもの】について伝え合うことがまだ難しい。
思考・判断・表現	やり取りの流れ	お互いのことを知るために、自分の【名前】【スペル】【誕生日】【誕生日に欲しいもの】について、内容を加えながら相手に伝えたり、相手の話すことに反応するだけではなく一言付け加えたりして、伝え合っている。	お互いのことを知るために、自分の【名前】【スペル】【誕生日】【誕生日に欲しいもの】について、相手に伝えたり、相手の話すことに反応する表現を返ししながら伝え合っている。	一人では、伝え合ったり、相手の言うことに反応したりすることがまだ難しい。
主体的に学習に取り組む態度	相手意識・伝える工夫	相手に伝わりやすいようにジェスチャーを工夫して伝えたり、相手の理解度を確かめながら、わかりやすく伝え合おうとしている。	相手に伝わりやすいようにはっきり伝えたり、相手の話すことにうなずいたりしながら、伝え合おうとしている。	一人では、相手を意識しながら、工夫して伝え合うことがまだ難しい。

図2 評価の観点(Unit 1+Unit 2の項目)

評価が難しいところです。

そこで、毎回の授業後に「学習の振り返り」を行う時間を設定し、外国語科のファイルに振り返りプリントを綴じて残すようにしました。プリントでは、Let's listen.やLet's try.など、その時間に取り組んだ活動について、CAN-DO形式で問うようにします。CAN-DO形式ではありますが、「できる・できない」の2択ではなく、「どこまでできるようになったか」に目を向けるため、4択でいちばん近いものに丸を付けるようにしています。これを積み重ねることで、「できなかった」という思いではなく、「できるようになってきた」という自己有用感を高めていくことを目指しています。また、自由記述欄には「知ったこと、わかったこと、考えたこと、これからがんばりたいこと」を記述することを伝え、振り返りの中で、メタ認知的に自分を捉えたり、自己調整したりする視点を身につけていけるように工夫しました。

You Can Do It!の前には、児童とパフォーマンスの評価観点(図3)を共有し、単元の目標に加え、児童自身の目標を設定するようにしました。振り返りの活動を続け、また過去のプリントを見返しながら自身の成長を考える機会をもつことで、少しずつではありますが、「これまでの姿から未来のことを考える」振り返りの様子が見られるようになってきています。

2学期に向けて

担任の先生方と一緒に授業づくりを行ったり、授業の中で児童の学びの様子を見たりする中で、各領域における評価について、「見取り方」というものが少しずつ見えてきた一方、実践を積み重ねるほど、評価することの難しさを実感しています。

U3 What do you have on Monday? 月 日

Goal: 教科や曜日など、時間割を伝えることができる。

■自分のめあて。

A 自分の「夢の時間割」を伝えることができますか。

まだむずかしい → 友だちや先生のサポートがあれば → 教科や曜日の時間割を伝えることができる → 習った表現を使って文を追加して

B 聞き手に自分の思いを伝えられるような発表ができますか。

まだむずかしい → 友だちや先生のサポートがあれば → 自分の考えた時間割を、はっきりと伝えられる → 理由をつけました。お題に及ぶの教科を伝えたりできる

C 学習した表現をまちがえずに使って、最後まで発表できますか。

最後までまだむずかしい → 原こうやお手本を見ながら → 時々はまだがえるが、最後まで → つまらず、まちがえず、最後まで

■今日の学習を振り返りましょう。また、発表本番に向けて、準備や改善が必要だと思うことを書きましょう。

5年 組 番 名 姓 _____

図3 パフォーマンスの評価観点

その中でも、「5領域の中のいわゆる『受容スキル』をどのように見取るのか」というところには課題を感じています。「聞くこと」についての評価では、各単元のLet's listen.での様子や、パフォーマンス・チャレンジでの指導者からの発話への反応をもとに評価を行いました。しかし、特に【思考・判断・表現】の評価については「この方法で正しく評価できているのか」という疑問が残りました。「聞くこと」の【思考・判断・表現】を評価するためには、「正しく聞き取れているか」にとどまらない「聞き取り活動」が必要となります。Let's listen.などを活用して評価するためには、音声や映像を視聴させる前に、児童の思考や判断が伴うような問いかけを行ったり、思考の過程が見えるようなワークシートを活用したりすることも必要になります。児童への過度な負担とならないように、

またやる気を失わせないようにしつつも、【思考・判断・表現】する姿を見取るためにどのような活動を行うのがよいのか、今後も試行錯誤が求められそうです。

また、【主体的に学習に取り組む態度】の「自己調整」については、児童が「自己調整の方法」を知ることが必要であり、自己調整する場面が確保されなければ見取ることはできません。さらに、自己調整する力は、外国語科だけで身につくものではありません。そのため、例

えば振り返りのしかたをすべての教科・領域で統一したり、発達段階に応じた振り返りのしかたについて学校全体で議論をしたりしていかなければならないでしょう。

評価についてはまだまだ課題も多いのですが、それを解決しようと模索することは、児童の成長を見取る活動を見だし、授業力を向上させることにもつながります。2学期以降も、児童が自ら学びを深め、育っていく姿を見取れるよう、取り組みを続けていきたいと思います。

充実した指導が導く 児童と教師のための評価



ひがし ひとみ
東 仁美

聖学院大学教授。小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)理事・トレーナー検定委員。
光村図書 小学校英語教科書『Here We Go!』編集委員。
著書に『小学校英語 はじめる教科書 改訂版』(共著/mpi松香フォニックス)など。

学習評価に関する資料を読んでも、いまひとつはっきり伝わってこない「**実際**」の指導と評価。山川先生の報告には、「これが知りたかった!」と思える5年生1学期の評価実践がわかりやすくまとめられています。公立小学校での実践で、評価についてこれだけ緻密に計画できるということは、多くの先生方の励みになるでしょう。山川先生の評価計画が優れている理由は、①昨年度の評価実践をもとに今年度の評価計画を立てている、②指導体制や授業準備が充実しており、そのことがすばらしい実践につながっている、③「話すこと[やり取り]」のパフォーマンス・チャレンジのねらいが明確で、

児童の実態に合わせて作成されたループリックが活用されている、④「話すこと[発表]」では、指導の中で【思考・判断・表現】を見取れるような発表の工夫がなされていること、等が挙げられます。

小学校の教育課程全体で指導と評価を捉えており、学校が児童をどう育てていくかという、評価のその先までを考えさせられる実践です。「聞くこと」の評価に関しては多くの課題があることも認識しており、「聞くこと」の【思考・判断・表現】の見取りをどのように工夫されていくか、今後が楽しみです。